

みんなで育てよう、緑豊かな私たちの森！子ども達に贈る自然いっぱい森

# 能ヶ谷西緑地だより

2024年6月1日号 291号 能ヶ谷西緑地・樹の会

## 【6月の予定】

- ◆6月8日（土）（雨天翌日）  
・マンション側斜面の草刈り
- ◆6月22日（土）（雨天翌日）  
・桜広場周辺の草刈り  
\* 9:00 現地集合（9:00～11:30）
- ◆6月1日（土）（10:00～12:00）  
・ヤママユ連・手作りカフェ  
平和台集会所  
問合せ：伊藤（735-8623）  
どなたでも参加自由です。  
作業には汚れても良い服装でおいでください。

※※※※※※ 緑地だより ※※※※※※

5月11日（土） 晴 参加者10名

桜広場の草刈り、大まかには草刈機で刈り込み、隅々や残したい植物の周りは丁寧に鎌で刈り込んでいく。北側のシャガの群生、東側のカラムシ、中央にはホウチャクソウ、北側のユキノシタ等は刈り込み過ぎないように。

この桜広場のもう一本の主人公、古木の梅はこの数年は花や実が付きにくくなっていたが、冬場に剪定を始めてから少しずつ復活してきた気配。葉も鬱蒼と生い茂り、梅の木の下は日陰となって皐月の風に吹かれ、刈った緑の草の匂いと相まって心地よい。

ピンクの花をつけたナワシロイチゴは、この次の活動日には実が付いているだろうか…等の会話も楽しい。

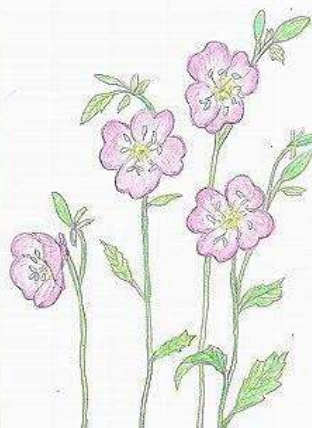
活動後はお料理上手なメンバーの差し入れ。切り倒されたナラ枯れの丸太から自生してきた白キクラゲの杏仁豆腐、広場の蓬と柏の葉で作った草柏餅、皐月の恵みに感謝しながらいただいた。

（片野）



ナワシロイチゴ

## 【緑地に咲く】ヒルザキツキミソウ（昼咲月見草）



アカバナ科マツヨイグサ属の多年草です。

北アメリカ原産で、大正末期頃観賞用に渡来ました。儂げな柔らかい花びらが風にそよいで、やさしい風景をつくりだします。種をパラパラと蒔くだけで簡単に繁茂し、丈夫なので、雑草化しているところも多く見られます。

（長谷部）

5月25日（土） 曇り 参加者8名

雲の切れ間から時折青空が覗き、涼しい風が心地よい陽気。

今日のメインは下草の除去作業。まずは長く伸びたクズの蔓を鎌で刈り、そのあとを2名の草刈機部隊がどんどん刈り込んでいきます。

そしてイタドリがこんもりと茂った南斜面は鎌で刈り取りますが、うっかりするとズルズルと斜面を滑ってしまう。思わず腰に力が入り、鼻水だの汗だのが噴き出します。

入口付近で根元から折れて倒れ、通路を塞いでいるコナラの木を発見。直径15センチほどの太さだが、のこぎりで切るのは重労働。みんなで交代しながらのこぎりを引いて、小分けにして片づけました。最後まで協力して充実の瞬間でした。

（上野）



ノコギリで木を切るのも大変！  
（森田さん撮影）

# 緑地からの贈物

四月のある日、ピンポンと鳴り、出てみると胸いっぱい枝を抱えたKさんが立っていました。訝しげに見つめる私に「春の嵐で折れた大枝の直撃を受けて、カマツカが根元から折れてしまった」と。緑地に一株しかない貴重な木です。私は心底がっかりしましたが、細い木が一本無事だと聞き、ホッとしました。

今から15年以上も前になるでしょうか…道に小さな小さな白い花びらが散っていて、カマツカの木の存在を知ったことが思い出されます。

Kさんが抱えている枝を見ると、白いかわいい花をたくさん咲かせています。私の大好きな花です。折れた木を、「このまま処分してしまうには、あまりにしのびない」と届けてくださったとのこと、Kさんの優しさに感謝です。



早速玄関の内と外に、大きな枝のまま活けました。みずみずしい葉の緑と白いかわいい花は、日々の無聊を十分に慰めてくれています。ありがとうございます！！

齋藤泰子

## 緑地の花



ブラックベリーも賑やか



ノイバラが花盛りです。  
(森田さん撮影)

- ◆ 緑地内は自然緑地として保全をしています。怪我しないよう十分に気をつけて楽しみましょう。
- ◆ ご意見がありましたら [nishiryokuchi@gmail.com](mailto:nishiryokuchi@gmail.com) まで  
「緑地だより」編集：小川

「能ヶ谷西緑地・樹の会」のHP（毎月末に更新）  
<http://home.a03.itscom.net/ryokuchi/>  
配信希望の方は、[nishiryokuchi@gmail.com](mailto:nishiryokuchi@gmail.com) まで

【緑地を楽しむ本】

きんぴかのむし じんがさはむし  
かがくのとも 2023年6月号  
吉谷昭憲さく 福音館書店



西緑地にはヒルガオはあるかしら？あつたら葉っぱに穴が開いているかどうか、調べてみましょう。穴が開いていて、その切り口が新しかったら、裏に金ぴかのジンガサハムシがいる可能性があります。

ジンガサハムシとは、昔の被り物の陣笠に形が似ているからついた名前。そして、小さいけど宇宙船にそっくり！アリなどにかみつかれそうになると、足を縮めて葉っぱにぴったりとくっつき、こもってしまうことができます。

ゴマ粒より小さい卵からかえった幼虫は、脱皮するとその殻を背中につけたまま。何回も脱皮するので、殻の数も増えていきます。

さなぎを経て成虫になってから、飛び立てるまでに3日もかかります。ジンガサハムシに会ってみたいですね。

(齋藤好子)



ジンガサハムシ幼虫。背中に脱皮殻を3つ背負っています。

【やまゆ連・手作りカフェー】

### お手玉作り

5月4日(土) 10:00~12:00 平和台集会所

お正月遊び、折り紙、あやとりと、このところ昔遊びをやってきました。昔遊びは、子どもの頃にやった記憶がありますから、なんとなくできるのです。でも、肝心の所は忘れていたり、育った地方によって微妙に違っていたり、体が思うように動かなかったり・・・やりながらびっくりしたり、笑いに包まれたり。

お手玉遊びもやりたいのですが、その前にまず作りましょうということで、布や中に入れる小豆などを持ち寄りしました。作るのは座布団型のお手玉です。2種類の布から5cm×9cmの布を2枚ずつとります。縫い代5mmなのですが、ボール紙で型紙を取っておくと、簡単に印をつけられます。

ただ、4枚を組み合わせ縫うところがなかなか難しく、苦労しました。

四苦八苦しながらもなんとかお手玉完成。でも、1個では遊べませんね。あといくつか作って、練習して、孫と遊ぼうと期待に胸は膨らみます。カフェ・メニュー：抹茶ケーキ(茶摘みをしたお茶を、抹茶にしました) (小川)



リフォームベストと手作り帽子